

(公民館だより)

広報 ひがしの

No.149
2016. 1.15

人口 1726 人
(男) 840 人
(女) 886 人
世帯数戸
615 世帯
(H28.1.1 現在)

春日遊江図
丁丑 春龍光る



水墨画による 春日遊江図
楽しい墨絵の会 飯塚 正孝 画



迎春

春風を以て人に接し、
秋霜以て自らつつしむ

「言志後録三十三条」

佐藤 一斎

春風のよう相手が気持ちに温かくし、元気が与えられよう接し方がしたいものです。そして、いつも自分に厳しく、秋の霜のように心を引き締めて生活したいと思うのです。

平成28年が始まりました。今年、どんな年になるのでしょうか。

「朝の空を見上げて 今日という一日が 笑顔でいられるように そつとお願いした」

朝ドラ「あさが来た」の主題歌の冒頭の歌詞ですが、シェークスピアの言葉に「人は心が愉快であれば、終日歩んでも嫌になることはないが、心に憂いがあれば、わずか一里でも嫌になる。人生の行路もこれと同様で、人は常に明るく愉快な心をもって人生の行路を歩まねばならぬ」とあります。

笑顔には素晴らしいメリットが七つあるそうです。

- ① 免疫力をアップさせる
 - ② アレルギー（アトピー）を改善させる
 - ③ ストレスを解消し、プラス思考になる
 - ④ 心臓病の予防に効果大
 - ⑤ 糖尿病・リュウマチの治療に効果大
 - ⑥ 「つられ笑顔」笑顔は伝染し、集団のストレスが軽減される
 - ⑦ 出世・成功を呼び寄せる
- 笑顔の多い人ほど長生き出来るそうです。日々嫌なことも多々ありますが、出来る限り笑顔に務めたいと思います。

森の名手・名人に認定

木地師・小林一雄さんが、国土緑化推進機構より平成二十七年「森の名手・名人」に認定されました。

「ものづくり・につぼん運動」のリーディングプロジェクト」として森に関わる生業を営む方の中から、優れた技を極め、他の模範となっている達人を「森の名手・名人」として選定されているものです。

平成二十七年度は全国で71名が選定され、岐阜県で選定されたのは、小林さんお一人でした。

小林さんの作品は、これまでも日本煎茶工芸展で最高位の文部科学大臣賞を受賞・日本伝統工芸展での入賞など多数の受賞作品があります。

伝統芸能の伝承者として、これからも素晴らしい作品を作ってください。



恵那市消防団 東野分団

12月25日〜30日にかけて、年末特別警戒を実施されました。

いつも、地域の安全と安心の為に尽力頂き、ありがとうございます。

1月9日（土）には出初め式への参加と、年末・年始にかけご苦勞様でした。

恵那市壮健クラブ作品展

平成二十七年の作品展が、十一月十三日〜十五日に市民会館にて開催されました。

東野からも多くの作品が展覧され、5名の方が入選されましたので、紹介させていただきます。

文化振興会賞

伊藤 武徳

金賞

市川 登美

銀賞

三宅 一嘉

入選

水野 和子

入選

伊藤 光恵

入選おめでとうございます。

文化振興会賞

伊藤武徳



金賞

市川 登美



地域の話題・お知らせ

豊受神社・開墾記念碑祭典

11月23日(祝)開発振興会の主催にて、多くの来賓・地域の方の参列のもと挙行されました。

豊受神社では、五穀豊穡を祈念。開墾記念碑では、東野耕地整理組合の偉業に感謝の意を捧げました。



東野小学校

間伐体験

11月20日(金)

東野生産森林組合所有地にて、5年生13名が間伐体験を行いました。
千藤組合長や県農林事務所の方から、森の大切さや間伐の必要性などを学びました。

収穫祭

12月11日(金)

米作りなどで日頃お世話になった方を招き、4年生はとん汁を5年生は五平餅を御馳走しました。
心のこもったおもてなしで、とっても美味しくいただきました。

市民三学東野塾

歴史講演会

「岩村藩主と
その一族の活躍」
(岩村城八百年の歴史)



12月12日(土)、岩村歴史資料館 歴史調査員の伊藤常光さんを講師にお招きし、歴史講演会を開催しました。

40名余りの住民の方が参加され、歴代岩村藩主とその一族の生い立ちや活躍を中心に解説頂き、岩村藩の歴史と当時の生活の様子などを熱心に聞きました。

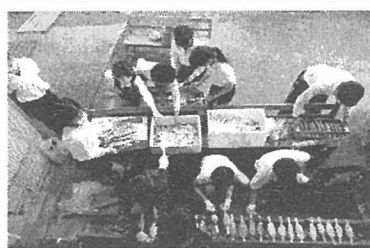
東野こども園 年末行事

クリスマスに「パネルシアターと音楽」を、年末には父兄も参加して「餅つき」をしました。

伝統行事を体験しながら、豊かな感性を養って行っていると思います。



市の森林組合の方に実技指導を受けました。



5年生みんなで協力し合い五平餅を焼きました。



餅つき
べったん・べったん、
上手につけたかな！



クリスマス会
トイパネルグループ
「ランプ」さん

文芸

○花無山句会

市川 芳子

・六千の命のビザや冬晴るる

内木 伊都子

・木の実踏む足裏にひそと音のして

西尾 美恵子

・曾孫等の写真届きし七五三

松本 はるか

・山門にルビーのやうな秋珊瑚

千藤 恵三

・冬晴れや投句入選報届く

○サークル短歌

鈴木 喜一郎

・青空に千切り絵のような汽笛上げ

ブルーのトレイン消えてゆきたり

・木曾五木戒律のごと守りつつ

生きた妻籠の軒場は低くし

市川 茂子

・モヤモヤな心の渦を消すように

風に揺れおりなんじゃもんじゃは

・椋鳥が法蓮草を啄みし

赤尾 袈夫

・萩群に隠れて吾を待ち伏せる

子らを焦らせり高原ウオーク

・逆光に透く穂すきよ故郷の

阿蘇山噴火ニュース聞きおり

俳句・短歌に興味のある方、

ご参加をお待ちしております。

公民館まで申し出下さい

顧みる

幼少期・養女へ・そして結婚

私は子どものころから、身体が弱かったことでお父さんお祖母さんに苦勞をかけた。

小、中、高と実家には大変よくしていただき、にぎやかな家庭の中で育った。

日々の生活は、何不自由のない幸せなものでした。

二十歳になった頃、となりの家から声がかかりました。

養女として迎えたいとの話です。

お父さんの勧めもあり、私も望んで今のこの家にやってきました。

こうして私は養女として迎えられ、三人女系家族の生活が始まりました。祖母、志ず八十二歳と、祖々母みやが私をとても大切にしてくださいました。

二年ほどたったある日、結婚話があり、昭和十五年五月十日農協に勤める銀行マンと結婚しました。

朗らかでお酒好きの主人は祖母達の手前少々遠慮気味です。「はい、お茶ですよ」と差し出すその湯呑の中身はお酒です。ほろ酔いするそのお茶に苦笑いする私達でした。

昭和十六年、子どもが生まれましたが、私達は正式に入籍していませんでしたの

で、親子三人籍を入れました。

人様が羨むほどの幸せな日々を送っていました。そして十七年次女が生まれしました。丸々と元気な子でした。

夫の召集

昭和十八年十月、その頃は大東亜戦争の真っ只中、近くの若者は次々と召集されて行きました。

いずれ主人にも令状がくるのではないかと恐れていましたが、昭和十八年十月十二日、とうとう召集令状が来てしまいました。せわしいわずかな時間でした。家族で写真を撮りました。

今も残る写真を見ると、誰もが悲しみを胸に秘め、平静さを装う、その表情は辛かったです。ここで、私が泣きぐずれたら主人の方がもっと辛くなるのです。そう思い、気丈な姿を見せていました。

この昭和十八年は戦局打開のため開始された特攻作戦でその後も若い命が次々と失われていったのでした。

昭和十九年の初め頃は東京、名古屋にはB29の爆弾が落ちていったのです。皆がお国のためにと犠牲になったことで主人は「子どもと祖母達をたのむ」と口数少なく行ってしまいました。

主人を見送り、その後ろ姿に「どうか無事で帰って来て下さい」と、手を合わ

せて祈りました。

頑張り抜いた日々茫然と立ちつくす自分の姿は抜けがらのようでした。目の前の生活、それは二人の寝たきりの老婆の世話、そして乳幼児二人の世話、お腹の中に一人と、重荷をどっしりとかかえた感じでした。

この時、実家の父に「お前がすっかりしないと子どもがかわいそうだから」と言われ、この現状を頑張り「この家を守らなければならない」とふるいたつのでした。

主人の給料も入らなくなった我が家は祖母達が残した反物とか、布団をお米に代えて畑で野菜を作りながら食をつないでいきました。

平和を祈る日々・終戦

日中戦争、そして世界大戦と避けることのできない弱き庶民、一人の人間が人を支配する、国家が国家を侵略する、最大な悪と知りながらどうして戦争なんかするのかと憎みました。悪を起こすも平和を作るのも人間です。どうか平和な社会であってほしいと祈るばかりでした。昭和二十年八月十五日終戦を迎えました。満州もポツダム宣言後、停戦となりました。

もし主人がこの時、なお生きのびてい

たとしたら、多くの日本兵と共に捕虜となり、シベリアに連行され、極寒の中過酷な労働を強いられていたのです。

今、振り返ると私の生みの親は私が生まれて間もなく病気で死んでしまったのです。育ての親は祖母でした。私と姉の二人が残されてしまいました。父の再婚で十人の子どもが生まれ、私達を含め、にぎやか家族で楽しかった。

あの時代、産めよ、増やせよの世の中でしたので父は言っていました「正直に生んだものだ」と。食糧難の時代です。実家も大変だったようです。

どんな時代であつても家族みんな平穏な日々を送ることが、できることを祈りました。

病に不幸に打ち勝つ決意をして

そんな矢先、次女が体調をくずし、長い間、病が続き死んでしまうのかと思うくらい重症の時もありましたが、必死で看護し、命はとりとめました。良い医者を探し、治療生活もおぶって通院し、一生懸命でした。次から次へといろいろ起こるこの現状、それは宿業というものでしょうか。

もし、そうだとしたらその宿業を断ち切らなくてはならないと宗教に耳を傾けてみる。とにかくこの手で子どもを一人

前に育てたいとの思いが強かったのでした。

今、すべての物が欠乏し、経済力がない自分であるが故に何とかしなければと、もがき苦しみ、そして三人の子のために働きに出ました。

幾日か続いた過酷な労働は私の小さな身体を犠牲にしていまい、とうとう寝込んでしまいました。この時、自分の食べる分を、子どもたちにと、まわし与えていたことで、過労と栄養失調も重なっていたのでした。

この自分のみじめな姿に、身が引き裂かれる悲しみを胸中に、すさまじき魂を呼びおこし、負けてたまるかと懸命に生き抜きました。

この苦闘の生活の中、ほんの少しでもいい温かな慰めてくれる一言が、やさしさがほしかったこともありましたが、これは贅沢なのでしょうか。

この今を人と比べるより、自分の今をみる、そして、明日の自分を少しでもよくして行こうと歯をくいしばってがんばりました。

学校での勤務、安定した生活

こんな私を遠くから見つめて下さっていたのでしよう。

ある日、PTA会長さんより、学校給食

担当のお仕事の紹介があり私は喜んで働くことにしました。

子どもの顔をみながら、働くことができるなんて夢のような話です。そして、我が家もやっと安定した収入も入り、生活も少しは楽になりました。

成長期の子です。収入源はすべて食費に消えていきましたが、こうして親子無事生活できることに感謝でした。

しかし、学校内の仕事は、私が思ったより現実にはきびしいものでした。苦勞もしましたが、一生懸命勤めました。

長女の他界・悲しみに耐えて

我が家も軌道にのり、三人の子はそれぞれ結婚しましたが、今度は長女が癌のため、三十三歳の若さで他界してしまつたのです。

長女は幼子を二人残してどんなにか無念だったことでしょう。あきらめきれない私。しかし、この現実を「もしかしたら、主人は長女をとてかわいがっていたのだから、連れて行ってしまったのかも」と、自分の胸に言い聞かせ、この悲しみに耐えていました。

長女の病が長く続いていたら、学校勤めも辞めなければならぬと考えていたのですが、実家の母や妹達の献身的な介護で助けていただきました。

苦難を乗り越え穏やかな日々

振り返れば、いろんな事がありました
が、学校での仕事も二十三年間、無事に
勤め、苦難を乗り越えて今、静かに長男
夫婦と穏やかな日々を送ることができ、
大変うれしく思っています。

ある御書の一節に「冬は必ず春となる」
とあります。

冬の寒さを知る人こそが、春の暖かさを
実感できるのです。

厳寒を越えていち早く春を告げる梅の花
は、ひととき美しく氷雪にも負けず、凜
と耐え、けなげに咲きほこるのです。

苦しみの闇が深かった分だけ、大きな
幸福の朝を迎えることができるのだと、
そしてどんな運命も価値に転換しゆく
人、それが人間としての勝利につながっ
て行くものだを教えていただく。

普段見過ごしているものの中にも小さ
な喜びをみつける。

そんな積み重ねの先にあるものが幸
福というものでしょうか。

生きてゆく上で大切なものそれは実感す
ること、夢と現実を結ぶ架け橋 それは
努力でしょうか。

努力する人には希望がわいてくる。これ
からも福運をつかむ芽を育てて行きたい。
それは日々、明るい心でいること。明る
い家には皆が集まる。

長男が主人の明るい性格に似ていてうれ
しい。そして今も残る主人の手紙。

遺言書と長男誕生の喜びのはがきが、
美しい文字で綴られている。

主人はまだ見ぬこの子にどれほど会いた
かったことでしょう。

この遺品を手にしてみると、主人のぬ
くもりを感じずにはいられません。

又、遺言書の三通の生命保険、これは家
族が食を満たすだけの金額があるはずな
のですが、私の手に渡ることはありません
でした。

何もないあの時代、あの世の中、人の心
も皆、荒廃していたから仕方がないと思
いました。

もうすぐ百歳・感謝の日々

私は今、九十七歳、どんな時代であつ
ても、人は生き延びたいと、懸命に生き
てきました。

厳しい波浪に難戦する人生、又、さざな
みにたわむれるがごときの生涯もあるう
し、しかし今、振り返ってみますと、難戦

し、いろいろ経験させていただいた分だ
け人様の気持ちになつて接することがで
きました。

どの方とも仲良くなれるし、仲良しに
なりたいたい。

人の一生は劇のごとし、激変の舞台を

動き、戦い、ひたむきに生きた。

主人と過ごしたあの温かくて幸せな家
庭が今、ここにあるのです。

死線を越え、あらゆる試練を己の内に
取り込み、がんばったあの日を人生の一
ページとしたい。

今は何も思ひ残すことはありません。
もうすぐ百歳です。元気でがんばりたい。

今、どんなことにも感謝できる自分
心穏やかに暮らせる自分 健康という宝
をいただいている自分 皆さんの幸せを
日々、祈ることができる自分。

これからも皆から愛される年月を重ね
て行きたいと思っています。
いつまでも いつまでも皆が幸せであ
って下さい。



平成二十七年四月吉日

伊藤 茂子

平成二十七年春、戦後七十年の節目にあたり、
「戦争の悲惨な体験を語り継ぎ、平和への思
い」を綴られたものです。

文化祭でも紹介させていただきましたが、よ
り多くの東野地域の皆さんに知って頂きたく、
掲載させていただきました。

東野まちづくり委員会

飯沼川を通じて郷土愛を育てる会

年間を通して、飯沼川河川敷の草刈り、東野駅周辺の環境整備、市道袖畑笠作線沿いへの花植えなど、地域の環境美化に努めていただいています。

年末には、市道の改修工事に伴い、小学校校庭より曼珠沙華の苗を下橋戸橋周辺の河川敷に移植していただきました。

お彼岸には、真っ赤な花が咲きそろうと思います。

地域のためにありがとうございます。



飯沼川河川敷
草刈りの様子



小学校校庭から、
曼珠沙華を移植

社会福祉協議会東野支部

アヤメ会

◆社協東野支部のふれあい食事サービス事業のひとつ「アヤメ会」は、ひとりぐらしの会員さんたちが毎月第1金曜日 東野コミュニティセンター調理室に集まっておしゃべりを楽しみながら調理をしています。

アヤメ会のモットーは「つくる」、「しゃべる」、「ふれあう」です。

調理ボランティアさんと一緒に調理をする人、地域包括支援センターの血圧測定、健康相談を受ける人、料理ができるまでおしゃべりしながら待つ人など和気あいあいとした雰囲気の中で時がながれます。12月4日(金)この日の献立は、トロロ汁、鶏肉から揚げ、五目煮和え(保存食)、煮豆 でした。



「映像で観る東野」上映会のお知らせ

◆日 時 : 3月5日(土) 午前10時~12時まで

◆場 所 : 東野コミュニティセンター 大会議室

前回の平成22年に引き続き2回目の開催となります。

千藤富久氏が今まで撮影してこられた東野の懐かしい映像を上映します。

※詳しい内容については決まり次第お知らせします。

東野体協コーナー

あけましておめでとうございます。

平成27年度の東野体育協会の行事は、皆様のご協力のもと、11月に予定されていた「ノルディックウォーキング講習会」を除き、予定の行事を無事終わることができました。

今後とも行事へのご参加やご協力などご支援を賜りますようお願い申し上げます。

また、当協会へのご意見やご提案もいただきたく存じております。

さて、本年度の体協の活動を振り返ってみますと、3つの住民大会(マレットゴルフ、インディアカ、ソフトボール)を実施することができました。

11月15日に予定しておりました第5回ノルディックウォーキング講習会は、残念ながら天候不良により中止となりましたが、今年予定していた「東野の五輪塔を巡るコース」は、東野まちづくり委員会教育文化部会と協賛で、来年度に実施したいと思っております。

今年も、より多くの皆様に参加頂けるような行事を工夫し、活動して行きますのでよろしく願います。

公民館よりお知らせ

東野ふるさと作品展の開催について

恒例のふるさと作品展(書き初め展)を1月14日(木)～1月27日(水)まで、東野コミュニティセンターロビーにて開催します。

東野小学校全児童と東野在住の東中生徒の皆さんの力作を是非ご覧下さい。

テーマ

・小学生のテーマは、「ふるさと東野」ならびに「校歌」にちなんだ言葉。

1年生「ほたる」

2年生「ふるさと」

3年生「ひがしの」

4年生「豊かな心」

5年生「保古の湖」

6年生「希望と夢」

・中学生「自由 ただし四文字熟語」

主に新年の抱負。

年末に、公民館の調理室を「虹の会」さんと市民講座「恵那の家庭料理を作る」の受講生の皆さんが掃除と備品の整頓を下さり、とてもきれいになりました。

ありがとうございます。

東野乳幼児学級(すくすくクラブ)

12月18日(金)に文化センターにて開催された合同乳幼児学級のクリスマス会に親子5組で参加しました。

当日は、歌とマジックにお楽しみのサンタさんからのプレゼントもあり、とても楽しい一日となりました。



すくすくクラブでは、一緒に活動して頂ける乳幼児親子の方を募集中です。

年間を通して、楽しい行事が企画されています。

詳しくは、東野公民館までお問い合わせ下さい。

根ノ上高原 どんどやき

日時 1月31日(日) 10時より

場所 保古の湖芝生広場(恵那山荘前)

書き初め・餅つき体験

・福豆まきのイベント

にあたたかい甘酒、

トン汁のサービスもあります。

日本一標高の高い場所

での? 「どんどやき」

是非お出掛け下さい。

